

第5回 群大Genome Damage Discussion Group 公開セミナー

日時：2016年5月31日(火) 17:00~18:00

場所：基礎大学院講義室(基礎研究棟 2F)

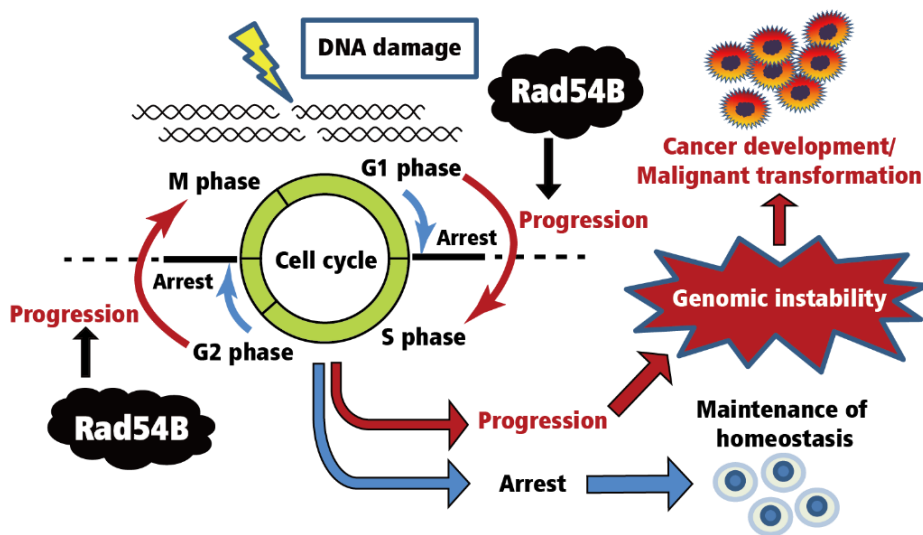
安原 崇哲 先生

東京大学大学院医学系研究科
疾患生命工学センター放射線分子医学部門・助教

細胞機能間ネットワークを標的とした新たながん治療戦略

要旨

がんの発生が遺伝子の異常に起因することが明らかになって以来、がん遺伝子やがん抑制遺伝子を中心とした、がん発生やがん形質維持に関与する様々な分子機構の存在が明らかとなってきており、分子標的薬の開発が進められている。しかしながら、分子標的薬はその特異性が故に、適用できるがんの種類に限られる傾向にあり、未だ多くのがんについては、非特異的な化学療法や放射線療法に頼らざるを得ないのが現状である。最近、我々のグループはRad54B-p53制御軸を介した、がん発生・進展の基盤となりうる分子機構を発見した。本セミナーでは、これらの分子機構を詳説するとともに、我々が提唱する細胞機能間ネットワークを標的としたがん治療戦略の可能性について議論する。



Takaaki Yasuhara et al.,
“Rad54B serves as a scaffold in the DNA damage response that limits checkpoint strength”,
Nature Communications, 2014

世話人：先端科学研究指導者育成ユニット
柴田淳史 内線 (7977)